稲城市長賞

税金への関わり

稲城市立稲城第五中学校
三学年　加藤　峻平

夏休みに入り、僕は祖父母からもらったお小遣いを持って大型量販店へ向かった。前からほしいと思っていたイヤホンを買うためだ。夏休みにはサッカーで大阪や北海道の長時間の移動の遠征があるので、暇つぶしやリラックスのために音楽を聞きたいからほしいと母に交渉していた。自分のお小遣いで買うのならと、やっと購入の許可をもらったのだ。いろんな種類のイヤホンがある中で、中学生の僕には高額の３９８０円のイヤホンを選んでレジに持って行った。「４３７８円です。」お店の人にそう言われるまで気がつかなかった。（そうか消費税がかかるのか）。そう思ってもう引っ込みがつかずそのまま購入した。僕の考えていた予算はオーバーした。よく見ると価格表示の下の方にもちゃんと（税込み４３７８円）とやや小さい文字で書いてあったのだ。コンビニで１５０円のジュースがレジで１６５円だったときはさほど感じなかったが、改めて意識してみると自分も結構払っているのだなと実感した。なんとなく品物の価値より１０％高いお金を払ったのだから損をした気分だ。消費税って何に使われているのだろう。僕は恩恵を受けているのだろうか。

ある日、家族で僕の進路の事を話していると、「私立高校授業料無償化」という言葉が出てきた。これは私立高校に通う生徒の学費を国や地方自治体が負担することで、この制度によって経済的理由で私立高校に通うことを諦めることがなくなり、全ての生徒が自分の希望する学校で学ぶ機会を持てるという、教育の平等を目指すものだ。この制度に必要な資金は税金から賄われているそうだ。

では、僕が通っている公立の中学校や高校はどうなのだろうか。調べてみると公立の学校の運営費のほとんどが税金で賄われているということがわかった。要するに、僕はこの先の受験で私立高校と公立高校のどちらに進学したとしても、税金に支えられるということになる。子供がいない人や自分の生活が精いっぱいの人が支払った税金も含まれているだろう。そう考えると、税金は払うときはあんまりいい気持ちはしないが、感謝しなくてはいけないとわかった。

日本の税金はおよそ５０種類もあるらしく仕組み自体も僕にはまだ理解できないことが多い。これから大人になるにつれ、払う税金は多くなるだろうし、仕組みや使われ方については興味を持っていかなければならないと思った。そして、国民の貴重な税金で学校に通わせてもらっているのだから、学んだことをいつか何かに貢献できるように頑張ります。

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会
優秀賞

税は未来を繋ぐ

稲城市立稲城第四中学校
三学年　細谷　心音

近年、「増税」という言葉をよく耳にする。多くの人が増税に対して不満を抱いているが、私は増税は必要不可欠なものだと考えている。十五年間生きてきたなかで私は、税金に様々な場面で助けられてきた。

私は今、十五歳になり、毎日健康にすごしているが、税がなければ健康に育っていなかったかもしれない。私は出産予定日より四ヶ月以上早く生まれそうになった。母は二ヶ月以上も入院していた。そこでは莫大な医療費がかかったが、健康保険を払っていたため、自己負担は三割で済んだ。他にも私の母は、過去四回手術しており、その都度税金によって助けられてきた。ほとんどの日本国民は、税金に助けられて生きている。税金は福祉の面でも役に立っている。現在日本では少子高齢化が進み、高齢者が非常に増えている。高齢者が安心して暮らしていくために、労働者がきちんと納税し、社会を支えていかなければならない。私の祖父母も年金によって生活をしている。二〇〇〇年時点の日本の総人口に対する高齢者の割合は約十七パーセントだったが、二〇五〇年には約三十五パーセントにもなると予測されている。全ての高齢者が年金を得るには、今よりも国民全員が納税をすることが必須になっている。このように、医療面や福祉面などを通して、税金には人々の命を守る役割がある。

それ以外にも税金には、公共施設やインフラなど、地域を支える役割がある。私が入学した当初、体育館の照明は古く、非常に不便だった。スイッチを入れてからあかりがつくまで二、三分かかることが普通だった。バスケットボール部に所属していた私は朝早くに部活を始めたいときに、照明がなかなかつかず、とても不便だった。その後体育館の照明が新しくなったとき、体育館がすぐに明るくなったので、感動した。照明を新しくするための費用は税金で賄われた。学校だけでなく、すべての公共施設は税金によって整備されている。私たちの生活をより良いものにしていくために、税金はとても大切なものである。令和三年度の新規発生滞納額は約七五〇〇億円にもなっている。これらがきちんと納税されれば更に多くの人々の命が救われ、人々の暮らしが豊かになっていくだろう。中学生の私は消費税という形でしか納税していないが、将来は納税して社会の役に立ちたいと思っている。税は未来の日本を豊かにする大きな鍵になるため、税を納めることは極めて大切だと考える。

東京納税貯蓄組合総連合会会長賞

命と笑顔を支える税金

稲城市立稲城第四中学校
三学年　髙光　咲乃

税金を思い浮かべると、私の大好きなお菓子や本を買う時に消費税がかかり値段が高く感じてしまい、悪いイメージしかありませんでした。しかし、祖母が病気になった際に税金に対するイメージが変わりました。

私が小学五年生の時に、いつも笑顔一杯だった祖母が倒れて病院に運ばれました。祖母はコロナが流行り始めた時に異状を感じていましたが、コロナが怖くて病院に受診しませんでした。祖母が病院に運ばれた時は、乳がんによる敗血症を患っていました。治療によって体調は回復しましたが、筋力が落ちて自力での歩行が困難になりました。退院にあたって介護保険制度を使うことを勧められました。

介護保険制度とは介護を必要とする高齢者の自立支援や、介護をする家族への負担軽減を目指し、介護を社会全体で支え合うことを目的として成立された保険サービスです。サービスを利用するとかかる費用は所得に応じて一割から三割で、残りの七割から九割は税金と介護保険料が財源となっています。

祖母は要介護一の認定を受け、玄関前の階段の手すりや洗面所にポールを設置したり、歩行器や車イスを借りたりする際の費用が一割負担になりました。サービスを受けることにより、祖母は洗面所のポールを使って一人で着替えができるようになり、歩行器を使って自力で歩行ができるようになったことから家族の介護負担が軽減し、祖母もまた笑顔を見せるようになりました。

そして私は、祖母のことを通して税金によって支えられている命や笑顔があると知り、税金に対する悪いイメージが良いイメージに変わりました。

今後は少子高齢化が進む時代になり、介護保険制度などに使われる税金が増え、税金を支払う人の負担が大きくなると予想されます。私も社会人になったら、支払う税金の数が増えます。その時は命や笑顔を支えてくれる税金に感謝し、私も多くの人を支えられる仕事をすると共に、自立した生活を送れるように健康を維持していきたいです。

南多摩納税貯蓄組合連合会会長賞

今の日本

稲城市立稲城第六中学校
三学年　横山　優

僕は今の日本がときどき心配になる時があります。

自分たちが生まれた時はまだ消費税が８パーセントだったが、10パーセントに引き上げられ、円安からなる物価高、さらに少子高齢化による、一人の高齢者の年金に対する働き手の比率の減少など日本は多くの問題点を抱えており、それらを解決せねばなりません。

その中でも、先程、触れた少子高齢化による働き手の不足は、現在、中学三年生であり、もうすぐで社会に出る私たちにとってはとても重大な問題だと思います。年々、少子高齢化は進んでいて、１９６５年は一人の高齢者に対する働き手は約９人いたのにも関わらず、現在は約２人になってしまってしまい、私たちが働き手となり、年金を納めているであろう、２０５０年には、１・３人と高齢者一人に対する働き手が約１人になってしまうと推計されています。

さらにもし自分が老人になって年金を受けとるときには、自分の年金を支える人々がさらに少なくなり、年金の減がくすら可能性が出てくるかも知れません。そうなってくると自分が払った年金がかえって来るどころか、減ってかえってくるという現実に疑問を持つ人も出てくるかも知れません。

さらに、さらなる医療の発展で、現在の人生１００年時代からさらに寿命が延びる可能性があります。それは、客観的には良いことですが、年金を納めている若者からすると、喜び難いものがあります。

よって、僕は医療の発展は良いことだとも思うので、日本はいかに少子高齢化を解消するかがこれからの政治を考えていくために大事だと思いました。

例えば、最近の人が子どもを産まないのには、子どもを産んだ後の生活の厳しさも一つの原因だと思います。だから、税金をもう少し子育て支援に使い、そうすると、自分が払った税金が自分のために使われていると国民は納得し、国民の反発もなく、金銭的な問題で出産を諦めてしまった人たちも、子供を産みやすくなると思います。

僕は、これからの日本をよりよくするためには、いかに少子高齢化を解消するかが、大事になってくると思いました。

南多摩納税貯蓄組合連合会優秀賞

タックスヘイブンとチップについて

稲城市立稲城第一中学校
三学年　足達　心美

私は以前から海外の税に関して、興味かつ疑問に感じていることがある。一つ目はタックスヘイブンだ。この言葉を初めてテレビ番組で耳にしたとき、税の天国かと勘違いしていた。その後、再びニュースできき改めて、どんなものか気になり調べてみた。タックスヘイブンとは税金が課されない、もしくは著しく軽減される国や地域のことで、「租税回避地」、「低課税地域」と呼ばれるものだった。天国のヘブンではなく避難地や保護区の意味を持つヘイブンだった。企業等で税負担を軽減するために利用されることが多いそうだが、国家の税収にも大きく関わる問題でもあり、最近では世界的にも対策されているらしい。ケイマン諸島やアメリカのデラウェア州などに多国籍企業が合法的に資産を移して租税回避をしているケースが多いそうだ。私は日本でもタックスヘイブンを提供してみたらいいのではないかと思う。これにより海外企業を呼び込み日本の税政を潤すチャンスの一つではないかと考える。海外企業が日本に多く来れば雇用も生み出せるし、私たちの将来の選択肢も広がる気がする。もちろん所得隠しや犯罪の隠れ家のようになる危険性もあり、問題点も多いが、そのような試みがあってもよい気がする。

二つ目は、海外のチップ制度だ。チップはどのように国や自治体に把握されるのか。キャッシュレス決済やクレジット払いなら、ある程度証明できるかもしれないが、直接現金で支払われる場合は、実際いくら受け取ったかわからないはずだ。なぜ、そのような曖昧な制度があるのだろう。サービスに対して自発的でありながら支払いを要求する形にも違和感を覚える。一方、現在の日本ではチップを渡す習慣がない。すべてのサービス料は最初から価格に含まれており、その収入に対して税金がかかるという仕組みになっている。チップの習慣があるなしにかかわらず、最近のデジタル化により、収入や課税に関しての補足がやりやすくなるのではないか、と思った。

税金は、福祉・教育・医療・インフラの整備にも使われており、病気やケガで働けない人、高齢者や子供たちの支援に欠かせない制度である。デジタル化による効率的で公平な税の仕組みが発展することによって、社会全体がより安心して暮らせるようになると感じている。

南多摩納税貯蓄組合連合会優秀賞

社会全体での支え合い

稲城市立稲城第四中学校
三学年　緒方　彩音

「私達は、社会全体で支え合って生きている。」この言葉は、祖父が私に言ったものだった。この言葉の意味はなんだろう。当時の私はよく理解ができなかった。社会全体での支え合いとは何を指すのだろう。ボランティアだろうか、相互理解の精神だろうか。どれも当てはまる気がする。そんなとき、こうして税について考えることとなり、社会全体の支え合いについて、少しわかったように感じた。

私にとって税を意識する瞬間は、消費税くらいだ。しかし学校で配られた資料を見て驚いた。所得税、自動車税、たばこ税、そして入湯税というものなど、知っているものから知らないものまで、沢山のものに税がかけられているのだと知った。そして、納税された税金により、日々の生活は支えられていることも学んだ。これはまさしく、社会全体で支え合っているといえるのではないか。

税による支え合いといえば、ふるさと納税がいい例ではないか。ふるさと納税は自治体への寄付だ。私自身、よく家族でふるさと納税を行っている。私はあまりふるさと納税について理解できていなかったが、この自治体への寄付により、納税する住民税が減額されると知った。なんていい制度なんだろうとこのとき感じた。ふるさと納税で、いつも美味しい食べ物が届く。としか感じていなかったけれど、私達のふるさと納税によって、自治体も支えられている。これは社会全体の支え合いの一つであると感じた。

しかし調べてみると、人口が少なく集められる税金が少ないため、インフラが充実せず、こわれたままの施設が多い地域は、国内外で少なくないという。税金が私達にもたらす影響の大きさを実感させられた。だが、それらの地域に寄付をし、少しでも生活の支えにという人がいることを知った。ここでも支え合いの精神は生きている。社会全体の支え合いは、世界にも広がっていると感じた。

税について考えてみると、社会全体の支え合いの環について気付くことができた。国内外すべての人どうしでの支え合い、税から始まる支え合いはいいものだと感じた。一方、税の負担に苦しむ人はいる。私はあまりそれを実感できていないが、税についてよく学んでいきたいと思う。これからの『社会』をつくっていくために、知ることから始めたい。

南多摩納税貯蓄組合連合会優秀賞

私たちにとっての税とは

稲城市立稲城第四中学校
三学年　増田　彩花

なぜ、私たちは税に良いイメージを持たないのだろうか。五年前、消費税が十パーセントに引き上げられるというニュースを耳にしたとき、私は無意識に、払いたくないという感情を抱いてしまった。自分の中での税は、ただ、お金を払うだけのマイナスのイメージしか無かったが、税金のしくみについて調べたことで、税金を払うことによって図書館などの公共施設を利用できていることや、怪我や病気で病院にかかったときも、医療費が高額になることはないと分かった。そのため、人は恩恵を受けているのに、なぜ、税に良いイメージを持たないのか、疑問に思う。

理由の一つに、税金には種類があるため、人は多くの税金を払っていると感じるのではないかと思う。働く大人は、源泉徴収などの税金が給与から自動的に引かれているが、その他に、お店で買い物をする際に徴収される消費税，銀行振込やコンビニで納める自動車税など多くの税金を払っている。この三つの税金のうち、源泉徴収以外の税金は自分たちが直接払っている。実際に私が税金を払っているという感覚になったのは去年、家族と車で関西方面へ旅行したときだ。関西に行くには高速道路を乗り継いでいく必要があり、料金所を通る度にいくらかかったのかが分かる。両親が高いお金を負担しているのを知り、私は高い税金を払っているという感覚を持った。

また、給料などの収入が増えていないのに税金だけが上がっていると感じている人が多い傾向や、少子高齢化が進んでいる深刻なニュースでは、自分たちは税を納めているのに、将来年金が貰えなくなるのではないか、などの不安の声が報じられている。給料が増えないのに、税金だけが上がってしまうと、家庭の負担が増えてしまい、安心して、子供を産める人が少なくなってしまう。その結果、少子化がさらに進み、年金が支給されなくなり、国民が生活していけなくなってしまう。

他にも、税が正当なことに使われていないという理由もあると思う。ニュースでは、公共施設やサービスを提供する以外に、政治家が国民の納めた税金を、パーティー資金などの遊びや、賄賂の受け渡しなどに使っていることが報道されていた。政治家は、国民の代表として、より良い国造りのために税金を使うべきなのに、悪いことに税金が使えることにも疑問を感じてしまう。このような理由から、私たちは公共サービスなどの恩恵を受けているのにも関わらず、税に良いイメージを持たないのではないかと私は考える。

本来の税の在り方は、私たち国民の生活をより豊かにするものだと思う。しかし今は、生活を豊かにするどころか負担をかけてしまっている。私はこのような税の在り方に納得することができない。今と昔は生活の在り方など、多くのものが変化している。そのため今一度、税と人間の在り方や、しくみを見直すべきだと、私は思う。

東京都八王子都税事務所長賞

少子高齢化とジェンダーと税

稲城市立稲城第五中学校
三学年　齋藤　結

今、日本の少子高齢化の進行により、高齢者の費用を支えることが大変になってきています。私はこのままだと、更に、費用を支えることが難しくなると思います。

高齢者が増えると、税は更に必要になり、給料は少なくなります。給料が少なくなれば、結婚をして子どもに恵まれた時に、子どもを支えていけるか不安になり、結婚しようとする人が少なくなると思います。特に女性です。出産のために、仕事をやめる、または休まなくてはいけなくなり、とても子どもを育てられるか不安になると思います。

このようなことの繰り返しによって、日本の少子高齢化が深刻になると思います。

しかし、この税金おかげで、日本に暮らす人々が幸せに生きているのも事実です。救急車を無料で呼ぶことができるため、命を助けることができたり、公立学校にかよい、無償で教育をうけることができます。また、医療証があることで、本来の値段の３割を負担するだけで診察してもらうことができるので、気軽に病院に行くことができます。

このように、人々の暮らしを幸せにする税を守るためには、やはり少子高齢化の進行を止める必要があります。そのために私はこのように考えます。まずは、給料を上げること。給料を上げることで、子どもを育てるうえでの不安が少なくなります。そして、育休を罪悪感なくとることができる仕事の環境をつくること。育休をとったら、周りの人に多少の迷惑がかかります。それを周りの人々が快く受け入れることで、育児をすることができます。もう一つは、男女差別をなくすことです。男性は仕事、女性は家事という考えをなくせば、男女の良いパートナーとして支え合うことができ、両者とも安心することができます。

これらのことから、私はジェンダー平等と少子高齢化と税は全て繋がっていることに気がつきました。日本の危機を乗り越えるために、私に今できることは、ジェンダー平等です。女性だからやる・やらないという思考を直していきたいです。

東京税理士会日野支部長賞

私たちの教科書

稲城市立稲城第三中学校
三学年　千葉　友里奈

家で勉強しているとき、何気なく教科書を裏返してみると、「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。」と書かれていた。この文を見て、私はある学校での出来事を思い出した。

授業が始まる前の休み時間、ある男子が「おれの教科書、何回も落としすぎてボロボロになってるし笑」と周りに言っていた。そんな言葉を聞いてすぐに先生は「そんなこと自慢してるの、カッコ悪いと思わないの？はい、皆さん教科書を裏返して左端を見てください」と言った。そしてさっきの男子に向かって、「教科書の裏に書いてあること、三回音読！」と真剣な顔で言った。「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。この教科書は…」読まれている間の教室は、自然と静かになっていた。

「税金によって無償で支給」教科書を使って勉強しているのは私たちなのに、教科書代は税金から出されている。税金というものは、日本に住んでいるほとんどの人が払っている。私たちの家族だけでなく、まったく知らない他人も払っているもの。そんなお金で作られている私たちの教科書。大切にするのは当たり前だ。あの場にいた全員が、改めて大切さに気づいたと思っている。「教科書は落としてボロボロにするものじゃない。たくさん勉強して、持ち歩いて、書き込んでボロボロにするんだよ。」あの時の先生の言葉は、今でも忘れられない。

「この教科書のボロボロ具合、努力の結晶って感じでカッコイイ！」友達にそんなことを言ってもらえるくらいまで、教科書を大切にボロボロにできたのは、あの時の先生の言葉のおかげだ。私たちの家族や、見たことも話したこともない人たちが払っている大切なお金「税金」が使われている教科書、これからの日本を担っていく私たちのための教科書、ということを忘れずに日々の勉強に励んでいきたい。

日野税務署長賞

生活の土台をつくる税金

稲城市立稲城第四中学校
三学年　及川　佳奈

二〇二四度から、私の住む東京都では私立高校に進学する生徒がいる全世帯に学費の補助が出て実質無償化する。このことを聞いた時私は「そうなんだ。なんでそんなことできるんだろう。」と思った。私はまずその補助金がどこから出るのか調べた。すると税金から出ることが分かった。改めて税金について考えると、消費税や自動車税、都民税、相続税など様々な場面で集められていて、それは全員が協力しているから集まるのだと思った。あまり財産に余裕がない人でも頑張って働いて税金を払っている。そんなたくさんの人の希望や願いがつまった税金を私立高校の補助に使うのは少し驚いた。身近な物でいうと教科書も税金からできている。高校の補助に教科書そして今通っている中学校まで税金でできているが、どうして子供のためにそんなにお金を使うのかとても疑問に思った。そこで働いたお金で税金を多く払っているお母さんに、子供に税金が使われていることに対してどう思うか聞いてみた。すると、将来立派な大人になってほしいという期待の思いを込めて納税していると言った。たくさんの人が子供の将来のことも思って、頑張って働いたお金で納税していると思うと嬉しかったし頑張ろうと思った。一方でその期待に応えなければいけないという責任感も私の中でとても感じた。

学校や教科書、補助金以外にも、学校に通うための道の修繕や調べ学習でよく利用する図書館なども税金でできている。日常で考えても私たちの周りにはたくさん税金からできているものがある。緊急時に来てくれる救急車や消防車も税金からできている。また、公園の整備もしてくれているおかげでスポーツもできる。このように未来に対する期待や希望も込められていると改めて知った。お金を貯めることは大変だが、消費することは簡単、そんな大切な税金を使って教育の質を上げたり、生活しやすくしているのには深い意味がある。私たち中学生はたくさんの人から期待されていて、そのおかげで今とても質の高い教育を受けられるようになっている。今回税金について考えてからは、期待に応えられるように日々の充実した教育制度に感謝の気持ちをもち、何事にも全力で取り組んでいきたいと思った。

私たち中学生のことも思って納められている税金。そんな大切な税金の期待を裏切らず、大人になったら税金でお世話になった分以上お返しできるように生活を送っていきたい。